

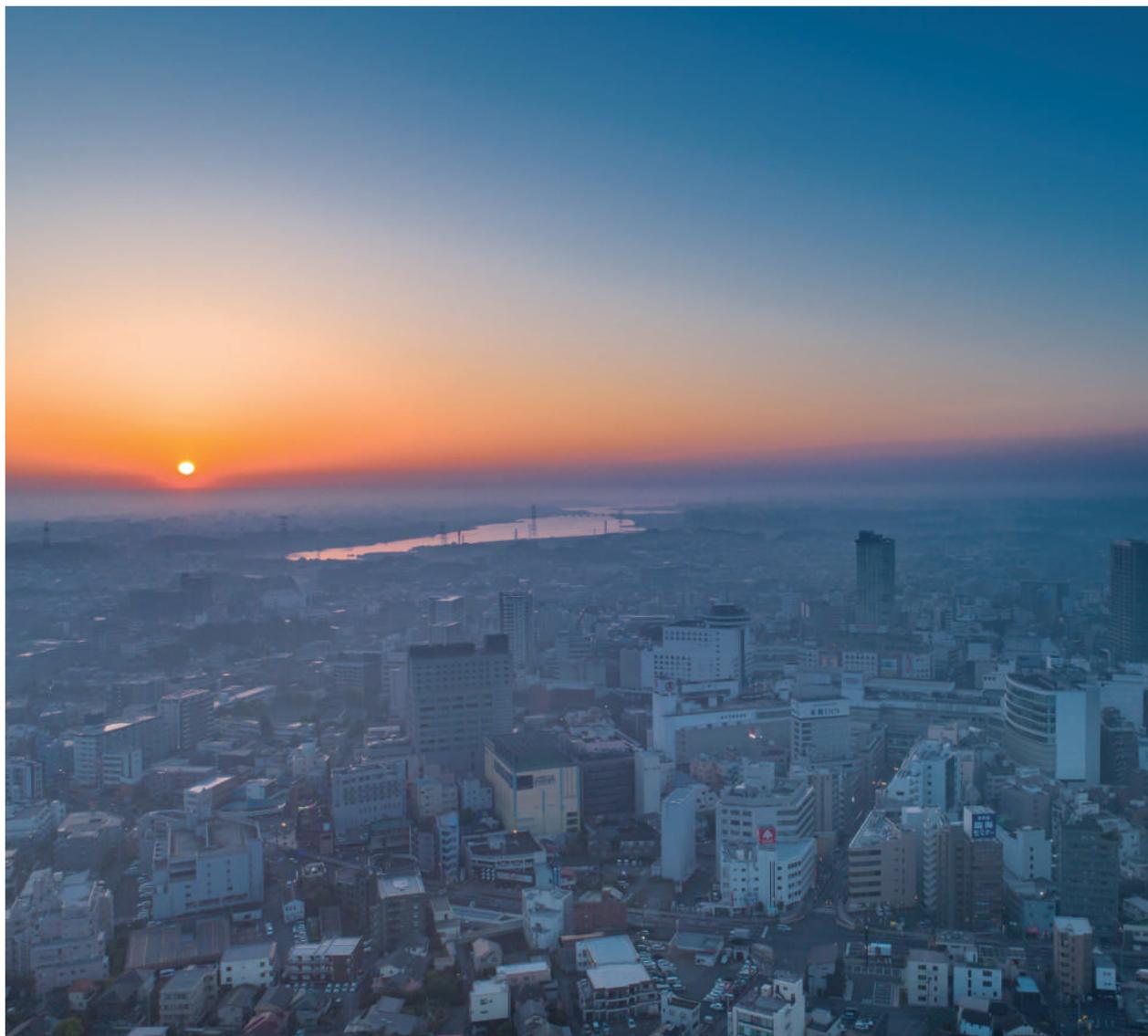
あなたの思いを 次の世代へ

～できることで学校を応援～

広報かしわが
リニューアル!

手に取りやすくなりました





つづくも、
つなぐ。

柏の木が、つぎの若い芽にバトンを渡していくように。

みんなで、柏をつないでいこう。

これまでも、しなやかに変わってきたように。

つづくために、私たちにできることがある。

ひとりひとりの、あしたをよくする知恵と工夫で。

柏市は、つづくをつなぐ、まちになります。

4月早朝、柏市内から手賀沼方面を望む。／撮影協力：柏中学校


柏市
KASHIWA CITY

CONTENTS ～目次～

4 特集

あなたの思いを次の世代へ～できることで学校を応援～

10 上下水道NEWS～水のチカラ～

13 ピックアップ Pick Up～市の新しい情報などをお知らせします～

令和4年度予算の執行状況をお知らせします／6月定例会の議案／
新型コロナワクチン集団接種のお知らせ／放射線対策NEWS／
低所得の子育て世帯への生活支援特別給付金 ほか

17 インフォメーション Information～情報コーナー～

高田緑地駐車場の利用を中止／プレ特定健診・特定健診・75歳以上の健診
【連載】カシワ★ナンバーLABO／団体・サークルの催し／サークル会員募集／市民の相談室 ほか

30 【連載】潜入!! 工事現場 トチュー 途chuアフター

第2回 英国の伝統ある名門校「ラグビー校」

31 カシワフォトダイアリー Kashiwa Photo Diary～まちの出来事を写真とともに～

激闘を制し4年ぶりに女王の座を奪還！ ENEOS サンフラワーズ／
俳優の杉 良太郎さんが特殊詐欺被害防止を呼びかけ／4年ぶりにD51ふれあい祭りが開催！

32 【連載】かしわ愛を込めて ふるさと産品お届け便

第2回 おりづるガチャ

市長の スマイル通信

vol.17

まちづくりの合言葉
「つづくを、つなぐ。」を
掲げます

柏はいろんな表情があるまちです。柏駅を中心としたにぎやかなまち、柏の葉地区の先進的なまち、手賀沼周辺の農地や豊かな自然、そして多くの住宅地。このさまざまなまちの表情は、そこに住む人たちが、新しいことや新しい人をしなやかに受け入れ、ともに作り上げてきました。しかし、日本が抱える人口減少や少子高齢化などの社会課題は、柏市も例外ではありません。持続可能なまちであり続けるためには、皆さんの力が必要です。そこで、市民、企業、市、あらゆる人が力を合わせて、これからもずっと続いていく柏をつくっていくために、右のページにある「つづくを、つなぐ。」を合言葉として掲げることになりました。市の名前でもある柏の木は、冬の間、枯れた葉を落とさないまま春を迎えます。一枚一枚の葉が、新芽にバトンを渡していくのです。私たちは、柏の木をお手本に、柏のまちをしつかりと次の世代へつないでいく。変化を恐れず、力を合わせて前へと進めていこう。そんな思いを、このひと言に込めました。一人一人の知恵と工夫を結集して、一緒に。つづくまち・柏をつくっていきましょう。

柏市長

太田 和 美



はがき・ファクスなどの記入内容

①希望する講座・催し名 ②郵便番号・住所 ③氏名(ふりがな) ④年齢 ⑤電話番号※電話が困難な場合はファクス番号⑥(往復はがきの場合) 返信面の宛先

掲載情報の
見方

時=とき 所=場所 対=対象 定=定員 内=内容 講=講師 費=費用 持=持ち物 申=申し込み 交=交通 他=その他
問=問い合わせ ●費用で特に記載のないものは無料 ●対象や定員に制限のないものは、どなたでも参加可

あなたの思いを次の世代へ できることで学校を応援



あなたの学生時代には、どんな思い出がありますか。
今号では、自宅に眠っている思い出の品を次の世代に使用してもらおうために始まった事業や、学校を陰で支えている人たちの活動を紹介します。

頑張る児童・生徒を 寄付で応援

市立小・中学校の吹奏楽部の活躍は目覚ましく、毎年全国大会に出場するなど、多くの大会で優秀な成績を残しています。

しかしながら、楽器はとても高価なもので、木管楽器などの修繕には4〜5万円ほどかかります。どの学校も限られた予算の中で十分な楽器を用意することが難しく、年季の入った楽器を使っているのが現状です。

そんな中、吹奏楽部を応援するため、市民の皆さんから自宅に眠っている楽器を募る「かしわ吹奏楽お助け隊」を令和元年6月に立ち上げました。

PART 1

もう一度、楽器をよみがえらせよう ～かしわ吹奏楽お助け隊～

自宅で眠っている楽器を寄付していただき、市内の小・中学校に楽器を届ける「かしわ吹奏楽お助け隊」の事業や、実際に楽器を寄付したかたたちの思いを紹介します。

インタビュー① 使わなくなった楽器に 若い息吹を――。



楽器を寄付した
亀野 豊子さん

私は高校時代にクラシックギターを演奏していたこともあり、心を豊かにしてくれる音楽が今でも大好きなんです。20年ほど前に、偶然再会した高校の友人にフルートをやってみないかと誘われて、楽器を購入しました。

しかし、練習を始めてから2年後に、バネ指になってしまい吹くことができなくなってしまうんです。治ったらまたやろうと思っていたんですが、また別の指が発症し、だんだん気持

ちが離れてしまい、押し入れにしまっただまにしていました。

この事業を知ったのは、友人のお孫さんが吹奏楽をやっていて、「楽器を寄付してもらおう事業がある」と教えてもらったのがきっかけでした。

最初は、家族も誰もやらない捨てることも考えたんですが、楽器との思い出も捨ててしまうみたいでしびない…それであれば、小学生や中学生に若い息吹を吹き込んでもらって、役に立ててほしいと思いました。

フルートを頑張って練習したり、友人と楽しく吹いたりした大切な思い出が詰まった楽器を手元に置いておきたい気持ちはあるけれど、思い出が心に残っていることが一番大切だと思ったので、今回寄付をすることにしました。



みんなで心を一つにして、練習に取り組んでいます



寄付された楽器は大切に使われています

地域のかたに寄付してもらった楽器は新品のようにきれいで驚きました。そんな楽器が僕たちの学校に届いてとてもうれしいです。

寄付された楽器は僕の同級生がメインで使っていますが、この楽器をこれからも部員みんなで大切に使い続けます。また、寄付をしてくれたかたの思いを胸に、大会に向けて今後も練習に励んでいきたいと思えます。



酒井根東小学校吹奏楽部
部長 保坂 柗志さん

インタビュー②
寄付してくれたかたの
思いを胸に――。

かしわ吹奏楽お助け隊を募集



あなたの自宅にも眠った楽器はありませんか？

フルートやサクソなど、あなたの自宅に使われずに眠っている楽器はありませんか。処分には困っている、捨てるにはもったいないと思っているかたは、ぜひ寄付をして、吹奏楽部の活動を応援しませんか。

事前に連絡の上、学校財務室（沼南庁舎2階）へ楽器をお持ちください。持ち込みができない場合は、職員が自宅まで楽器を預かりに伺いますので、ご相談ください。

募集期間／6月1日(木)～7月31日(月)

☎ 学校財務室 ☎ 7190-7004 ・ ☎ 7191-1212



寄付について
詳しくはこちら

■寄付の流れ

①学校財務室へ連絡



②楽器を学校財務室へ持ち込む



③市で楽器の状態を確認



④寄付の手続き

PART
2

その制服に、新しい思い出を ～柏市制服バンク～

6月から始まる、「柏市制服バンク」の登録方法や事業に対する担当者たちの思いを紹介します。



生徒に届け「柏市制服バンク」

●対象の制服

市立中学校 全校の現デザインの制服
学生服（学ラン）、ズボン、セーラー服、スカート、
ブレザー、スラックス※シャツ、ネクタイ、リボン等の小物を除く

●申請から持ち込みの流れ

- ①申請フォームから、お手持ちの制服情報（中学校名、種類、サイズなど）を登録
- ②登録された制服を譲り受けたいかたから申請があると「マッチング」。学校教育課からメールで連絡
- ③希望の提携クリーニング店舗へ制服を持ち込む※マッチング前の持ち込みは不可
- ④持ち込み完了後、学校教育課へ連絡
- ⑤協力のお礼として図書カード1,000円分を進呈

●制服を譲り受けるかた

来年、中学1年生になるかたで、就学援助を受けているかたを優先
※優先となるかたには10月下旬に個別に通知を送付
園 学校教育課 ☎7190-5779 ・ FAX7191-1212



詳しくは
こちら

自治体初の制服リユースマッチング事業がスタート
あなたの自宅にご自身やお子さんの卒業とともに着なくなった制服はありませんか。6月から、ローヤルクリーニングセンター等と連携して行う制服リユースマッチング事業「柏市制服バンク」を開始します。

この制度は、スマートフォン

などから不要になった制服を登録し、必要としているかたが見つかる（マッチング）と近くの提携クリーニング店に持ち込むというものです。
いつか誰かにあげようと捨てずにしまっているかたなど、ぜひこの制度に登録してみませんか。



株式会社ローヤルクリーニングセンター
統括マネージャー 佐々木 貴之さん

地域の皆さんに 恩返しができるように

当社は1963年に柏市増尾で事業を開始し、そこからおよそ60年、地域にお住まいの皆さまに利用していただくことで、支えられ、育てていただきました。私たちは実店舗を構えているので、インターネット販売のように全国各地のお客さまを相手にするものではなく、地域にお住まいの皆さまと直接お会いし、声を聞きながらサービスを提供してまいりました。

だからこそ、当社の理念は「地域の皆さまにお役立ていただき、社会に貢献すること」。そんな中いただいた今回のお話は、まさに当社の本業であるクリーニン

グを通じて地域に貢献できる大変良い機会だと思えました。

本来、クリーニング業務は、洋服を出すときと引き取るときの合計2回、同じお客さまとお会いします。この事業は制服をお持ちいただくかたと受け取りに来るかたが別のかたのため、これまでに前例がなく、この事業にご協力できるかどうか社内でも何度も検討しました。

それでも、学校教育課の担当者のかたと事業の進め方を模索しながら、何とか実施できるような一緒に考えてきました。実現できたのは、やはり地域のかたと恩返しをしたいという思いが強かったからだと思えます。



制服で思いをつなぐ。

インタビュー

思い出の制服を眠らせているだけでなく、もう一度、使えるように

制服は、学生生活の象徴です。

しかし、卒業すると同時に使用道はなくなってしまう。もちろん、卒業後に学校のバザーやお下がりに回されるかたも多いと思いますが、3年間の思い出が詰まった制服をすぐには手放せず、大切にしまったままのかたもいるのではないだろうか。

市内の中学校の場合、制服を着用するのは登下校だけで、校内では指定のジャージを着て過ごすため、状態の良い制服も多いと思います。

そんな制服を処分したり、押し入れの奥に眠らせたりしているのももったいない。それならば、必要としている生徒に使ってもらえたらと思いい、この制服バン

クを立ち上げました。

この制度は、スマートフォンなどから不要になった制服を登録し、必要としているかたが見つけたら（マッチング）、近くの提携ローヤルクリーニング店に持ってきていただくというものです。マッチングが成立した場合に制服をお預かりするので、大切な制服が使われずに無駄になるということはありません。

ご自身やお子さんに不要になった制服があれば、ぜひこの機会に制服バンクに登録していただきたいです。皆さんから譲っていただいた制服がもう一度、誰かの大切な思い出になるお手伝いができればと思っています。



学校教育課
野本 佳奈さん

子どもたちが主役！ 地域と学校の輪を広げよう

～コミュニティ・スクール～

私たちが子どもたちのためにできることは、学校で使えるものを寄付するだけではありません。ここでは、子育てを自分のことのように考え、地域の子どもたちの成長を見守るかたたちを紹介します。

地域・家庭・学校
みんなで子育て

「コミュニティ・スクール」

コミュニティ・スクールは、学校の先生と保護者、そして地域のかたたちが集まり、その学校に通う子どもたちにどのように育ってほしいか、そのためにどんなことができるかをみんなで話し合い知恵を出し合う、「学校運営協議会を設置した学校」のこと

コミュニティ・スクールって何だろう？



詳しくはこちら

- 1 校長先生と学校運営協議会委員の会長が中心となり、話し合いを行います



- 2 ①の話し合いで上がった取り組みを地域住民に伝え、協力者を募ります



- 3 地域住民で学校に協力してくれるかたを「学校支援ボランティア」といい、学校と一緒に教育活動を行います



図 学校教育課 ☎7190-5779 ・ FAX 7191-1212

土南部小学校



学校運営協議会
副会長

入道 和代さん



学校運営協議会
会長

西條 剛さん

とをいいます。近年のコロナ禍で、学校や地域で行われていたイベントの多くが中止になったため、地域のかたが学校に関わる機会がなくなり、地域と学校のつながりが希薄化していきました。コミュニティ・スクールでは、希薄になった地域とのつながりをもう

一度作り、地域のかたが学校を通して子育てに関わることで、子どもの学びを深めたり、地域に愛着を持つ子どもが増えたりすることを目的としています。市では、令和5年度末までに市内の市立小・中学校全63校がコミュニティ・スクールになる予定です。

子どもたちのためにできることを

土南部小学校の校長や学校運営協議会委員さんたちに、具体的にどのようなことをしているかお話を聞いてきました。

―西條さんや入道さんは委員として普段どのような活動をしていますか

西條さん 私たちは、子どもたちのために必要なことを話し合い、その中でできることを考え、さまざまな企画を立てています。また、ここでも上がった活動内容に協力してもらえなかったかたがないか、ふるさと協議会や町会のかたなどに声を掛けています。

入道さん 私は、委員として協議会に参加しながら、学校ボランティアも行っていて、プリントなどの丸つけをする「丸つけ隊」として活動しています。「丸つけ隊」は校長先生が学校の先生たちにとどのようなお手伝いがあったら助かるかアンケートを取り、その際に要望として上がったものなんです。

伊藤校長 丸つけ隊やお昼の見守り隊の他にも校庭の整備などお願いでいて、学校にとって、とても心強い存在です。

―お二人はどんなきっかけで学校と関わるようになったんですか

入道さん 私は、もともと18年前から主任児童委員をやっていたこともあり、学校と関わる機会が多かった



んです。子どもたちが生き生きしているのを見るとこちらも元気になります。あとは、協議会で話を聞いていると学校現場が大変なことが本当によく分かるので、先生たちのお手伝いをしたいなって思っています。

西條さん 私は、息子が通う学校でPTA会長になったことがきっかけです。実際に子どもが学校に通っているときは、自分の仕事も忙しく、皆さんにお任せしていましたが、今は子どもの手も離れて時間が作れるよ

うになったので、あの時お世話になった恩返しと思って参加しています。働きながらとなると、なかなか難しいかもしれませんが、できることで構いませんので、地域の皆さんに力を貸してもらえればと思います。

―委員の皆さんは、学校と一緒に活動に参加しているのですか

伊藤校長 もともとコミュニティ・スクールは、学校だけではなく保護者や地域のかたの力を借りて、みんな子どもたちを育てていこうというものです。お昼休みの見守りなどを地域のかたにお願いすることで、先生たちが子どもたちと向き合う時間がより多く取れるようになればと思います。

―特に土南部小学校は、地域の皆さんとのつながりが強い気がします

伊藤校長 この地域は、もともと地域のつながりが強いので、実現できていることは多いと思います。実際に、校庭の整備で困っていることを協議会で相談したら、委員の皆さんが地域のかたに声を掛けて、集まって整備をしてくれたこともあります。学校だけではできなかったことが皆さんのおかげで形になって…本当に感動しました。これからは学校と地域の皆さんと一緒に模索しながら、子どもたちのためにできることを少しずつ積み上げていければと思います。



校長
伊藤 雅朗さん

編集後記

今回の取材にご協力いただいた皆さんの「児童・生徒たちのために―」という純粋な思いがひしひしと伝わり、心が温かくなりました。その優しさを受け取った児童・生徒たちもきっと、次へ優しさをつないでくれると思います。